

平成14年10月24日(木)、富山全日空ホテルにてNEAR2002・中国「中国投資環境説明会」を開催いたしましたので、その概要を以下のとおりご紹介いたします。

# 「中国投資環境の 読み方」

講師：ジェトロ海外調査部

中国・北アジアチームリーダー代理 阿部宏忠



## 1. はじめに

中国は、2001年12月にWTOの加盟を実現しています。これによって中国は第2の開放をしたと言われており、一気に13億の巨大市場がいよいよ皆さんの前に開き始めました。それは同時に、中国の開発区、地方都市にとって競争時代の幕開けとも言えます。なぜなら日本を始め、世界各国の企業家が、中国に行ってみたい、中国に投資したいと本格的に思い始めているからです。そうした中で中国の開発区が、行政サービスやインフラの特性を生かして、いかに自らをアピールできるか、つまり、開発区、地方同士での企業の取り合いといったことが、本来ならば行われるべきであろうと思います。

## 2. 中国の投資受け入れの現状

表1は、中国の各省・市の2000年と2001年の投資の受け入れ状況についてです。その特徴として、上海、江蘇、浙江など、上海周辺の地域の投資件数が非常に大きく増えていることがわかります。一方、これまで中国の投資の4割近くを占めていた広東省は、増えてはいるものの、前述の地域に比べて伸びがそれほど大きくありません。つまり外資は上海周辺地域に集中しつつあることを示しています。実際ジェトロへの問い合わせの多くは同地域に関するもので、同地域が対中投資で今最も注目されている地域だと言えます。投資している日本企業数（登記ベース）は、中国側の統計で

は1万4,000社ほどで、そのうち9割が沿海地域に集まっています。また、ジェトロのアンケート調査では、これら日系企業の約7割が「黒字」を確保しており、いろいろな悩みを持ちながらも、経営はまずまずのようです。

## 3. 中国のどこに投資すればいいのか？

中国は1979年の改革・開放政策を実施して以来、いろいろな優遇制度、誘致策を打ち出し、考えつくありとあらゆる方法で開発区や特別地域を設けてきました。その数は合わせて4,200にも上ると言われています。この状態は広大な中国とはいえ、明らかに「乱立」と言わざるを得ません。こんなにあると、これから中国に投資をしたいと考えている企業にとって、どの地域がいいのか、何が違うのか、簡単にはわかりません。

なぜ、これだけ開発区が出てきたかといえば、これまでの中国経済発展の原動力は外資だという認識が、年々強まってきているからです。実際、対外税収入の1/5、輸出額の1/2以上、従業員2,300万人の雇用を外資が生み出していると言われています。

改革・開放から23年の歳月が経った現在、地域によって差が生まれつつあります。外資誘致における優遇策は原則として全国統一で、それほど差はありません。差が出る原因はやはり立地条件やインフラ整備、行政サービス等において現れてきます。地理的に恵まれており、「黙っていても企

業が来てくれる」とあまり熱心ではない地域もあれば、あまり注目されていないのに、行政サービスを簡素化し、手取り足取り面倒をみってくれる地域もあります。この意味で、一概に沿海地域だからいいとは言い切れない面もあるのではないかと思います。

こうした中、最近では中国の開発区や地域の投

資環境をランキング評価しようという動きが出てきています。これは、実際に進出した企業にアンケートを行い、投資環境に関する様々な項目について5段階評価をしてもらい、それを集計し、ランキングにするというものです。これが表2になります。表2 - ①は中国広東省の新聞社のアンケート調査による、中国の主要10大開発区のランキ

表1 外国直接投資の地域別受入状況

単位：億ドル

省市(部門)名称	2000年			2001年		
	契約ベース		実行金額	契約ベース		実行金額
	件数	金額		件数	金額	
総計	22,347	623.8	407.1	26,140	691.9	468.8
東部						
北京市	1,145	35.5	16.8	1,146	27.1	17.7
天津市	625	35.4	11.7	618	20.8	21.3
河北省	492	11.8	6.8	501	8.0	6.7
遼寧省	1,851	49.9	20.4	1,660	41.6	25.2
(大連市)	693	25.6	11.1	719	24.2	14.6
上海市	1,814	63.6	31.6	2,458	73.7	42.9
江蘇省	2,645	112.5	64.3	3,583	150.9	69.1
浙江省	1,642	25.1	16.1	2,310	50.2	22.1
(寧波市)	550	9.5	6.2	806	19.6	8.7
福建省	1,463	44.7	34.3	1,670	50.1	39.2
(アモイ市)	259	11.6	6.6	343	12.0	8.3
山東省	2,728	50.7	29.7	3,047	67.2	35.2
(青島市)	1,128	26.6	13.1	1,254	35.9	15.8
広東省	4,243	115.2	112.8	5,315	112.2	119.3
(深圳市)	1,130	17.4	19.6	1,501	27.2	25.9
海南省	184	1.4	4.3	181	1.5	4.7
中部						
山西省	71	2.6	2.2	75	3.0	2.3
吉林省	363	6.0	3.4	337	5.8	3.4
黒龍江省	260	2.8	3.0	242	3.8	3.4
安徽省	247	6.4	3.2	260	6.4	3.4
江西省	272	2.6	2.3	308	5.3	4.0
河南省	237	7.0	5.6	224	6.2	4.6
湖北省	330	10.7	9.4	349	8.7	11.9
湖南省	320	6.7	6.8	338	9.5	8.1
西部						
四川省	293	6.0	4.4	356	9.9	5.8
重慶市	190	3.6	2.4	172	4.4	2.6
貴州省	55	0.7	0.3	59	0.9	0.3
雲南省	106	3.0	1.3	140	2.9	0.6
陝西省	215	5.0	2.9	222	7.3	3.5
甘肅省	76	1.2	0.6	70	1.6	0.7
青海省	42	1.2	-	48	2.0	0.4
寧夏回族自治区	31	0.7	0.2	34	0.8	0.2
新疆ウイグル自治区	58	0.9	0.2	53	1.3	0.2
内蒙古自治区	95	2.6	1.1	76	2.6	1.1
広西チワン族自治区	246	7.1	5.2	285	5.9	3.8

出所：中国対外経済貿易年鑑2002年版

表2 - ① 中国大陸10大開発区の投資環境評価

	ハード環境		ソフト環境		総合環境評価	
	得点	ランキング	得点	ランキング	得点	ランキング
大連	4.00	1	3.96	1	3.84	6
崑山	3.90	2	3.96	2	4.16	1
天津	3.88	3	3.64	6	3.88	3
深圳	3.85	4	3.56	9	3.85	4
成都	3.70	5	3.80	4	3.74	8
黄浦	3.69	6	3.65	7	3.81	7
浦東	3.69	7	3.65	8	3.85	5
北京	3.60	8	3.95	3	4.04	2
武漢	3.53	9	3.71	5	3.73	9
重慶	3.47	10	3.42	10	3.63	10

出所：「21世紀経済報道」より（2002年6月）

表2 - ② 企業が投資拡大、又は新たに投資する可能性がある都市・地域

ランキング	省・市	パーセント	ランキング	省・市	パーセント
1	上海	20.50%	9	重慶	5.60%
2	北京	12.10%	10	四川	4.70%
3	江蘇	8.80%	11	山東	4.70%
4	広州	7.28%	12	天津	3.10%
5	深圳	6.70%	13	福建	2.90%
6	浙江	6.50%	14	遼寧	2.70%
7	広東	5.90%	15	湖北	2.20%
8	その他	5.70%	16	海南	1.20%

出所：米国雑誌「フォーチュン」より（2002年5月）

表2 - ③ 大陸地域の投資環境分析：省・直轄市・自治区別

省	地域	サンプル数	自然環境		インフラ		公共施設		社会環境		法制環境		経済環境		経営環境		加重満足度	2002本研究
			平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位		
江蘇省	華東地域	271	3.999	02	3.676	01	3.583	01	3.741	01	3.494	02	3.460	01	3.625	01	3.595	01
浙江省	華東地域	177	3.812	03	3.517	04	3.517	02	3.292	10	3.619	01	3.133	03	3.507	04	3.481	02
上海市	華東地域	169	4.118	01	3.544	03	3.412	05	3.400	07	3.267	03	3.006	11	3.533	03	3.380	03
福建省	華南地域	142	3.759	05	3.630	02	3.503	03	3.536	03	3.076	08	3.277	02	3.354	08	3.354	04
山東省	華北地域	34	3.351	16	3.446	08	3.216	07	3.683	02	3.186	05	3.103	05	3.406	07	3.307	05
北京市	華北地域	36	3.450	15	3.504	06	3.418	04	3.518	04	3.063	09	3.085	06	3.297	11	3.268	06
河南省	華中地域	16	3.781	04	3.516	05	2.800	15	3.225	12	3.208	04	3.060	09	3.450	06	3.258	07
遼寧省	東北地域	33	3.570	12	3.500	07	3.285	06	3.412	06	3.091	07	3.007	10	3.352	09	3.254	08
湖南省	華中地域	21	3.738	06	3.283	11	3.158	10	3.316	09	3.026	10	3.128	04	3.553	02	3.237	09
広西省	西南地域	31	3.725	07	3.238	12	3.187	08	3.439	05	2.989	12	3.074	07	3.240	14	3.178	10
湖北省	華中地域	25	3.659	08	3.321	10	3.083	11	3.000	15	2.895	15	3.062	08	3.505	05	3.143	11
天津市	華北地域	37	3.574	11	3.224	13	3.175	09	3.344	08	2.946	14	2.955	14	3.342	10	3.142	12
四川省	西南地域	19	3.592	10	3.359	09	3.018	12	3.218	13	2.955	13	3.002	12	3.096	16	3.108	13
雲南省	西南地域	16	3.516	13	3.094	15	3.000	13	3.088	14	3.100	06	3.000	13	3.075	17	3.090	14
河北省	華北地域	33	3.516	13	3.047	16	2.750	16	3.236	11	3.015	11	2.797	16	3.116	15	3.023	15
広東省	華南地域	534	3.597	09	3.217	14	2.837	14	2.849	17	2.659	17	2.928	15	3.244	13	2.954	16
重慶市	西南地域	19	3.079	17	3.013	17	2.579	17	2.884	16	2.820	16	2.644	17	3.272	12	2.886	17
江西省	華中地域	23	2.987	18	2.589	18	2.480	18	2.552	18	2.516	18	2.400	18	2.675	18	2.557	18

出所：台湾区電機電子工業同業公会「2002年中国大陸地域の投資環境およびリスク調査」

注：(a)加重満足度 = 自然環境 × 5% + インフラ × 15% + 公共施設 × 10% + 社会環境 × 10% + 法制環境 × 30% + 経済環境 × 15% + 経営環境 × 15%

(b)アンケート得点は以下のとおり。「特にそう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらでもない」3点、「あまりそう思わない」2点、「全くそう思わない」1点。

ングで、表2 - ②は米国の有力雑誌「フォーチュン」が実施したアンケート調査結果です。ただ、このランキングは、すでに投資した企業が、その地域に再び投資を拡大させたいのか、それともまた新たに投資する可能性があるとしたら、どの地域にするかをランキングにしています。表2 - ③は、台湾の業界団体が、中国に進出した台湾系企業に対して、アンケート調査を行ったランキン

グです。この台湾の調査の特徴は、江蘇、浙江、上海、そして広東省のサンプル数が非常に多く、台湾自体の主力産業を反映し、電気電子産業が大半を占めています。

なおランキング結果は、単純にある地域がいいからその地域に投資をすればよい、ということでもありません。過去数年間の取り組みの結果、ランキングが上昇している地域はどこか、また今後

の有望地域や現在頑張っている地域はどこかということ調査することで、外資を受け入れる中国側に対しても良い意味の緊張感を与え、全体的な投資環境の底上げを図るという目的があります。ですから、これは対中投資の参考情報としてご覧いただき、こうした動きが最近始まり、各開発区の競争が本格的に始まったと考えていただければ良いと思います。

#### 4. 投資環境を調べる上でのポイント①

##### 中国側スピーチのチェックポイント

特に強調したいのは、各開発区や地域のセールスポイントが、国家の統一的な優遇政策とどこが違うのかということです。例えば、日本へこんなに船便が出ている、高速道路で何時間で主要都市に行ける、といった地理的アクセスの優位性や、水産業が非常に優勢なので、対日輸出型加工企業を起こせば絶対に儲かるといった、具体的な提案が絶対必要です。このことはこれから発表いただく各省・市の投資説明担当者の方々にも事前にお願ひしましたので、準備が間に合えば、具体的な提案等が聞けると思います。話が出なければどんどん質問してください。

もう1つ強調したいのは、各地域や開発区に日本企業が実際何社進出しているのかを聞いていただければと思います。その進出企業数が昨年、一昨年と比較してどう推移したか、なぜ増えたのか（減ったのか）、何に努力したから増えたのか、何が足りないから来ないのか、などです。彼ら自身何か努力をしていれば、それは結果として結びついているはずですし、また努力をしたにもかかわらず来てくれないのは何が足りなかったのか、プロモーションが足りないなど、いろいろあると思います。そういったこともこと細かく聞いていただくと、その開発区、都市の実情なり、情熱の具合がわかるのではないかと思います。

#### 5. 投資環境を調べる上でのポイント②

##### 日本企業の心構えについて

これから投資をしよう、中国との取引を始めようという日本企業に対し、特にお願いしたいことを何点か申し上げます。まず投資をする際の「意識」です。「今は中国ブームだから中国へ行かないと何も始まらない」と説明する方もいらっしゃる

のですが、いくらブームであり、中国がいろいろ努力をしているとはいえ、肝心の日本企業側が、なぜ行くのか、何のために行くのかを明確にしないままに進出すると、大変なことになります。先程の「フォーチュン」で発表しているトップ500という大手企業のランキングがありますが、この500社のうち400社以上が中国に拠点を設けて、実際に生産やサービス活動を行っています。この400社のうち、日本の企業は100社強ほどです。日本にこれら世界の名だたる企業が来ているかといえば、賃金コストが高いなどの理由もあってそんなには来ていないのではないのでしょうか。この意味で中国は日本以上の競争社会に突入しており、確かにビジネスチャンスはありますが、その実現はなかなか簡単ではないという状況なのです。そのような中国に目的意識が薄いまま行けば、それは非常に危険な投資と言わざるを得ません。

また、様々な開発区が乱立していますので、いくつかの地域に絞った上で実際に自らの眼で視察し、その地域の優位性を比較検討するべきです。もし日本企業が進出していたら、その企業の責任者に実際の状況を聞き、中国政府側の意見と日本企業側の意見を両方聞いた上で、投資を考えていただくのが一番だと思います。こうした作業の中、努力している地域、努力していない地域の温度差が見えてくると思いますので、それを厳しく分析し、評価の悪い地域には投資しないということが重要です。これも中国側には結果的にプラスに働きますので、はっきり選別をしていただければと思います。

最後に、視察などで中国の方と接するにあたっては、「中国という異国の地で、儲けさせてもらっている」という感謝の念をぜひ忘れないでいただきたい。お金を出してお前たちの地域を儲けさせてやるのだ、というような傲慢な態度で行くと、当然相手にとっても気持ちのいいものではありません。日本も外国から同様のことをされたら面白くないのと一緒です。常に中国という異国で、その地域の優位性を活用しながら「儲けさせてもらう」という姿勢で取り組めば不毛なぶつかり合いは起きないでしょう。